

様子や気持ちを表す言葉、手ぶくろを買いに

五年 組 番 名前

次の文章を読んで、後の問いに答えましょう。

■物語のここまでのあらすじ

(ア) つめたい雪で赤くなつた子狐こぎつねの手を見て、母狐ははぎつねは毛糸の手ぶくろを買ってやろうと思います。その夜、母狐は子狐の片手かたてを人の手に変え、(イ) 銅貨どうがをにぎらせ、かならず人間の手のほうをさしだすように言い、町に買い物に行かせました。

「お母さんは、人間は(ウ) おそろしいものだっておっしゃったがちつともおそろしくないや。だってぼくの手を見てもどうもしなかったもの。」と思いました。けれど子狐はいったい人間なんてどんなものか見たいと思いました。

ある窓まどの下を(エ) 通りかかると、人間の声がありました。何というやさしい、何という美しい、何というおっとりした(オ) 声こゑなんでしょう。

「ねむれ ねむれ 母の胸むねに、ねむれ ねむれ 母の手に——」

子狐はその唄声うたは、きつと(カ) 人間のお母さんの声こゑにちがいないと思いました。だって、子狐が眠る時ねむるときにも、やっぱり母さん狐はあんなやさしい声でゆすぶってくれるからです。

(中略)

それをきくと子狐は急にお母さんが恋こいしくなつて、お母さん狐の待っている方かたへ(キ) 跳とんでききました。

お母さん狐は、心配しながら、坊やぼやの狐きつねの帰かえってくるのを今か今かとふるえながら待っていましたので、坊やが来ると、(ク) 温かい胸むねに抱だきしめて(カ) なきたいほど(ケ) 喜よろこびました。

(『手ぶくろを買いに』新美南吉。出題にあたり一部書き改めたところがある。)

問一

文章中の 線部について、漢字の読みをひらがなで、ひらがなは漢字に直して に正しく書きましょう。送りがなが必要なものは送りがなも書きましょう。

(ア) つめたい

(イ) 銅貨

(ウ) なきたい

(エ) 喜び

び

問二

本文中の——(1)と(3)の言葉が何を表す言葉であるか後の□から選び、ア～ウの記号を書きましよう。

(1) おそろしい

(2) 通りかかる

(3) 声

ア 動きを表す言葉    イ 様子を表す言葉    ウ 物や事を表す言葉

問三

本文中の——(4)、なぜ子狐こぎつねは「人間のお母さんの声にちがいない」と思ったのでしようか。本文中の言葉を使って、次の空らんらんに当てはまる言葉を書きましよう。

自分のお母さんも眠るときに「」声でゆすぶってくれるから。

問四

本文中の——(5)、子狐の「跳とんで」いく様子は、どんな気持ちを表していますか。次の中から最も当てはまる言葉を選び、番号で答えましよう。

ア 早く会いたい    イ 少し疲れた    ウ とても悲しい

問五

本文中の——(6)、子狐を「温かい胸むねに抱だきしめ」た母狐はどんな母親であることがわかりますか。次の中から最も当てはまる言葉を選び、記号で答えましよう。

ア 疑うたがい深い    イ 用心深い    ウ 愛情あいじょう深い